

世界のソーシャル・ビジネス

北米編
米国口座持たない25億人に
フィンテックを活用

米国カリフォルニア州サンタモニカを拠点とする「Tala(タラ)」社は、注目株のフィンテック企業だ。女性社会事業家のシヴァニ・シロヤ氏が率いる同社は、ケニアやフィリピンなどの新興市場における少額ローンの即時決済を可能にしたアプリ「タラ」を開発。40万人以上がダウンロードし、タラ社による完全融資を通じて、現在12万人が利用している。

(寺町 幸枝)



タラ社のロゴマーク④と
タラ社を立ち上げたシヴァニ・シロヤ氏



シヴァニ・シロヤ氏は投資銀行家としてキャリアを積み、興味を持ったマイクロファイナンスを学ぶ中で、その欠点や不完全性に気付いた。これが、タラというアプリを考えだきっかけだ。

大学院卒業後、国連人口基金のアナリストとして、アメリカ諸国で4500人を超える人々に、実際にマイクロファイナンスを通じて借りた資金の流れを聞いて歩いた。そうした現場経験があるからこそ、現アプリを立ち上げわずか2年で、アシヨカ、TEDをはじめとした社会事業への深い関心を持つ組織から評価されてきたと言えるだろう。

タラ社は、「信用偏差値(クレジットスコア)」という銀行やカード会社がローンを貸し付ける際の目安として使う値を、現金のみで生活している25億人の

人々に対して数値化する仕組みを構築している。

ローンをはじめ、生活を豊かにするための金融商品へのアクセスを可能にしたこのアプリは、保険をはじめ、借金だけではない相対的な金融商品の提案も可能にしている。

従来の金融機関と共存

タラ社が行う信用調査は、スマートフォン内の10万以上の分析項目を、独自のアルゴリズムで評価し、最大500ドル(約5万7千円)まで、ローン希望者の返済能力に見合った金額を即時決済する。

その分析項目は、例えばローンの借入人が1日に何人と話したか、行動範囲や親や親戚とのコミュニケーション頻度などを評価していく。現在、平均のローン金額は50ドル(約5700円)。それに対する利子は11%で、90%以上がローン返済を行っているという。

だが、タラ社が高く評価さ

れている一つの理由は、タラの信用偏差値の情報が、タラ社を通じて伝統的な金融プラットフォームへ流れる仕組みを構築している点だ。

これにより、既存の金融機関は、顧客を増やすことができ、タラの融資と返済をきっかけに、ローンを受けられなかった人々が、融資を受けられるという仕組みができた。「UNBANKED(銀行口座を持たない人)」という言葉は、新興市場を語る上で外せない用語になったが、この現金のみで生活をする人々が25億人に上るという事実こそ、タラ社の事業としての可能性を語る上で、投資家たちの注目を集める理由だ。

2016年以内に、インドネシア市場でのランディングテストを開始する見込みだ。全日本空輸の社会起業家支援事業「BLUE WINGプログラム」にも選出されたシロヤ氏。フィンテック企業としての存在感もさらに増すに違いない。